

沿岸水産資源の持続的利用の推進及び新漁場等の調査 Ⅱ 沈設魚礁調査

漁業資源課 稲葉 太郎

1 目的

高知県では、沿岸の漁場整備の一環として、人工礁、大型魚礁、並型魚礁等の沈設魚礁を長期間にわたり多数設置してきたが、海上測位や沈設物探査の困難性等のため、正確な設置位置や詳しい配置状況が明らかでない魚礁が多かった。そこで、沈設魚礁の設置状況を明らかにし、漁業者に情報提供することにより、造成漁場の有効利用を図るとともに、適切な施設管理に役立てることを目的として、既往調査結果の取りまとめ作業と情報提供を行った。

2 方法

調査には県漁業調査船「土佐海洋丸（80トン）」搭載のマルチビームソナー（Kongsberg Maritime製 EM-710RD）を使用した。測位にはDGPS受信機（古野電気製 GP-150）を用いた。

3 結果

大方地区から中村地区の沿岸域について、海底地形探査装置を用いた調査結果の取りまとめを行った。

取りまとめた魚礁の位置を図1に示した。対象範囲は図1の線で囲んだ範囲で、調査で設置状況が明らかになったものを、図中に破線で囲んだ。調査対象範囲には広域型増殖礁2工区、人工礁1工区、複数の大型礁が含まれており、これらの設置状況を取りまとめ、漁業指導所を通じて漁業協同組合に報告書を提供した。

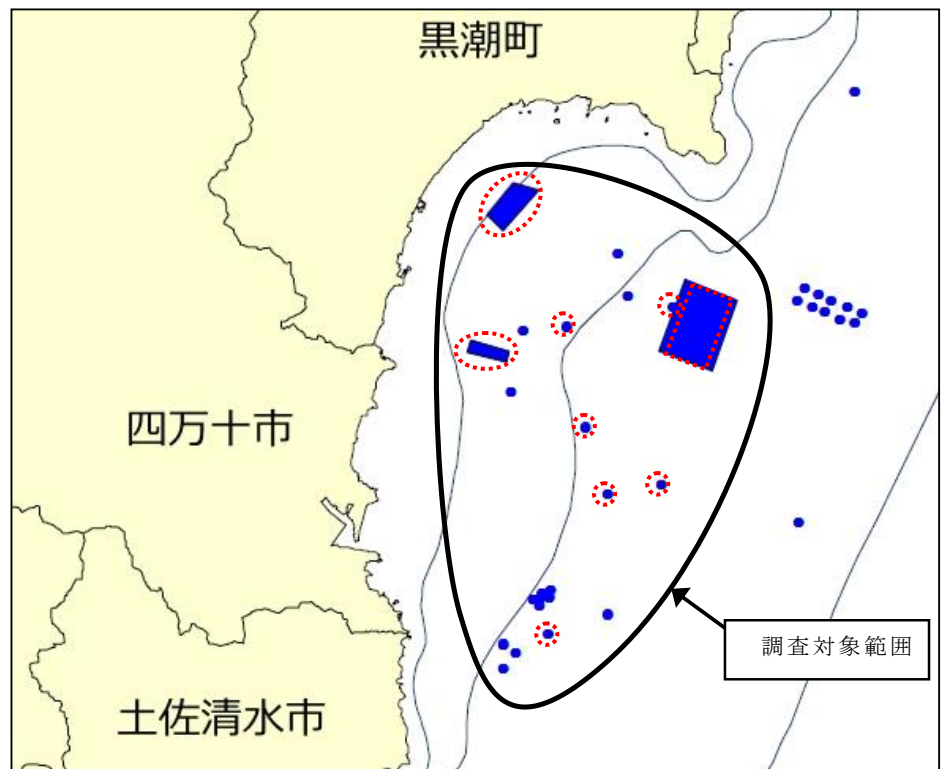


図1 大方-中村地区とりまとめ位置図